

研究者名※	徳安 浩明 TOKUYASU Hiroaki	学位※	博士(文学)
所属※	文学部 史学科	職名※	教授
連絡先	tokuyasuh@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/TOKUYASU.Hiroaki		
研究分野※	人文学、人文地理学、歴史地理学、地理教育		
研究キーワード※	自然－人間関係、地域環境・災害、伝統的経済活動、生業複合、たたら製鉄		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等	岡山県苫田郡上齋原村 上齋原村史執筆委員委嘱(1995年11月-2002年3月) 島根県古代文化センターテーマ研究「たたら製鉄の成立過程」第6回客員研究員共同検討会 空中写真判読による鉄穴流し跡地の検出法の限界と可能性(2019年8月) 地理教材研究会 講演 中・高・大学における琵琶湖を題材とした地理教育の実践(2022年10月) 鉄の歴史村地域振興事業団 鉄の歴史村の講演会 基調講演 鉄穴流しの研究最前線(2024年10月)		
受賞歴			

研究領域	人文学、人文地理学、歴史地理学、地理教育	(SDGs)
研究テーマ※	伝統的経済活動にともなう地域・環境の変化／地理教育の改善	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 近世・近代日本の山間部では、稲作・畑作農業以外に、焼畑や林業、製炭業、木工品生産、狩猟採集、鉱物生産、金属製錬などの経済活動が行われていた。これらの経済活動の盛衰は、地域や流域の環境にさまざまなインパクトをあたえていた。中国山地や北上山地では、砂鉄と木炭を原料とするたたら製鉄が行われていた。これまでの研究では、大規模な地形改変をともなう砂鉄採取部門の鉄穴(かんな)流しを題材として、中国地方を中心に地形改変地の再利用や、河川に棄てられた大量の土砂による水害などについて検討してきた。同様の事象は東北地方でもみられるため、現在は北上山地での研究も進めている。あわせて、製鉄業に関連した新田開発や、山地住民の就業機会としてのたたら製鉄や製炭、木工品生産、牧畜、物資輸送などについても検討している。 【応用例、研究の展望】 今後も、自然と人間の関係史を考察するという歴史地理学の立場から、伝統的経済活動による地域の開発過程を明らかにしていく。あわせて、資源の確保をめぐる対立・調整や、地域・環境の変化をとらえていく。山間部が後進的な低生産地域として理解されがちな中、かつての活発な経済活動の実態を示していきたい。山地が約7割を占める日本列島の国土に対する理解度を高めることは、地理教育の重要な使命である。山間部の地理・歴史に関する正しい情報を発信し、国土に対する認識の改善に努めたい。 【研究方法の特色】 現地踏査(フィールドワーク)に重点を置いている。同時に、過去の経済活動を理解するうえで、古文書類の利用も欠かせない。その一方で、地形の人為的改変をとらえるにあたっては、航空写真の立体視が効果的である。また、GIS(地理情報システム)の発展・普及によって、赤色立体地図や陰影起伏図などを用いての分析が可能になった。地形・地質・気候などといった自然条件を考慮しつつ古文書に記載された内容を検討すると、新たな解釈も可能になる。人類による地球環境へのインパクトに注目して「人新世」という地質時代が提案されている中、自然と人間の関係史に関わる知見を提示していきたい。	
本研究関連 特許・論文等	・地理教育における近世・近代の「山村」―課題とそのあり方 小林浩二編『実践・地理教育の課題』ナカニシヤ出版 2007年 ・近世前期の鉄穴流しによる地形改変と耕地開発 安田喜憲・高橋学編『自然と人間の関係の地理学』古今書院 2017年 ・20世紀中頃における島根県旧仁多町三沢地区の鉄穴流し 大和大学社会学部研究紀要3 2024年	
共同研究・外部機関との連携への期待		